

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 8月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	3170200830
法人名	株式会社 ヒョウゴナカムラ
事業所名	グループホームさわやか
所在地	鳥取県米子市皆生温泉1丁目16-10 (電話) 0859-38-5288

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207号		
訪問調査日	平成19年8月17日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(19年 7月 2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年 3月 7日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤	人, 常勤換算	16 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(7月 2日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名	
要介護1	0 名	要介護2	8 名			
要介護3	6 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.3 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック、やざき医院、坂根歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

皆生温泉の町内に位置し、既存の保養所とマンションをリフォームしたホームである。併設のデイサービスがあり、希望する利用者は共同の温泉浴を楽しむ事も出来る。いずれのユニットも2階であること、別棟になっていることなど、建物の構造上の難点を職員が工夫と気配りでカバーしつつ利用者と共に暮らしている。介護度が上がっていく利用者に対しても、かかりつけ医及び訪問看護サービスと提携しながらホームとして出来る支援を続けている。体調管理をベースに利用者の残存能力を大切に、日々の楽しみごとや役割を見出している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	建物の構造上の問題点は前回通りであるが、利用者が越えていくという物干し場の窓は、ブラインドに変えたり、危ない箇所への出入口は施錠管理するなどの工夫が見られる。昼食時同じ食卓を囲む取り組みは、職員で話し合った結果難しいとのことであるが、引き続き検討していただきたい。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット1では全職員が項目ごとに内容について話し合われたが、ユニット2では管理者の視点で自己評価が行われた。日々のケアを客観的に振り返る為にも職員全員での取り組みが望まれる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員会では、評価結果について報告、検討されたりホーム内での問題点などが、取り上げられ、サービス向上に繋げている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情・相談は、管理者が直接話を受けるケースが多く、速やかに対応・反映されている。また、運営推進会議を通じて、話し合いが持たれている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	少しずつ公民館活動への参加がある。デイサービスを通してボランティア、近隣の人との関わりがある。今後固定観念にとらわれず、自由な発想から地域との交流・連繋が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	簡潔でわかりやすい理念(入居者が穏やかで生き生きとその人らしく暮らしていけること)を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念は現在盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を職員全員で確認し、今後地域の中でどうあるべきか踏まえ、地域密着型の理念の作成検討中である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の折に管理者と職員で理念を確認し、実際のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	少しづつ公民館便りを利用し、行事・活動に参加しつつある。また併設のデイ・サービスを通してボランティアとの関わりもあるが、地域の人々との交流が少ない。	○	運営推進会議に自治会役員や公民館職員等に参加を要請するなどして糸口を見つけていかれてはどうか。また自治会への加入、学生ボランティアの受け入れ、地域の園児とのふれあいなど様々な交流等、地道な働きかけを続けていくことが良いのではないのでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の結果について会議で報告、改善の話し合いが持たれていたが、ユニットごとでの取り組み状況に多少バラツキがあるせいか、改善課題が十分ではない。	○	改善計画を作成するなどし、改善に向けた取り組みをされると良いでしょう。自己評価については、職員全員で取り組むことにより、日々のケアをより客観的に見つめられる機会として活用していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター主任、介護職の知見者で構成された会議が2ヶ月に一度開催されており、日頃のケアの問題点などをテーマに話し合いが持たれていた。		サービス向上のための率直な意見を出してもらおう一方で、今後ホームと地域をつなぐパイプ役としての役割を担っていくことが期待されるので、委員を固定せず、地域の自治会役員や公民館職員等に参加を要請してはどうかか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向き、つながりを持つ為の努力しておられるが、現在協同関係が充分では無く、連携があまり取れていない。	○	行政の担当者も事務的でなく、親身になって事業所の話聞く姿勢が問われる。担当者の意識の向上も不可欠と言える。このことに関しては一事業所としてではなくGH協会を通して行政に提案されると良いかもしれません。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書と共に健康状態及び日常生活の報告、金銭出納帳が家族宛てに詳細に送付されている。年に3回家族新聞が発行されており、年に一度食事が開催されている。その他必要に応じ個別に電話で本人の様子が報告されている。		利用者の暮らしの雰囲気や職員の異動がよりわかりやすくするためにもっと写真等を入れるなど検討されてはどうか。また、訪問の少ない家族への地道な声かけを継続されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談の窓口の明示がなされ、運営推進委員会を通して意見を聞く機会を設けている。実際には、管理者が家族より直接口頭で意見を受けるケースが多く、速やかに対応が行われている。その為職員も意見を活かし易い雰囲気になっている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は、経験を積んだ職員が対応し、配慮されている。		担当職員が変わった時や、新入職員の紹介などを毎月の報告や便りで家族に知らせてあげると良いのではないのでしょうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会は、必要に応じ開催され学ぶ機会が設けられている。外部の研修を受講する機会は少ない。	○	単独のグループホームであるため情報入手しづらいとのことであるが、昨今様々な研修が常時開催されている中でアンテナを高く張り、職員の資質向上の為に段階的な研修計画を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互研修に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	過去デイサービスの利用から入所された方も2名おられる。十分な入所説明を行い、生活歴をアセスメントし、早くから馴染みの関係を築く工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者より、戦争や昔の暮らしの話を聞いたり、お手玉・歌などを教わったりしている。また、共に暮らす者として利用者の思いに心から寄り添っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成段階のアセスメント、日々の行動や会話の中で本人の思いや意向を把握している。また家族の方からも聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の思い、ニーズの記録がある。本人の希望をできるだけ尊重しつつ、家族や関係者とも話し合いをプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行いプランと照らし合わせている。状況変化が生じた場合は適宜変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者それぞれのかかりつけ医への通院介助が行われている。併設のデイサービスへの参加の試みもなされていた。デイサービスと共用の温泉にも希望により入浴支援なされている。業務上の問題もありホームとデイ間のフレキシブルな支援が難しい。		併設のデイ・サービスの機能を活かし、さらに柔軟な対応が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の納得の上でかかりつけ医を決定している。ケースにより、ホームドクターの往診も可能である。週に一度訪問看護を受け利用者の体調について相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人および家族の希望により亡くなる一週間前までホームで介護を受けた利用者があった。家族の協力も得た上で、責任者はスタッフとよく話し、昼夜連携をとりながらターミナルケアに対応した。		今後本人と家族の意向があれば、早めに職員間で意識確認を図り、医療処置を受けながらの生活の継続や重度化した場合や終末期の入院の回避などの支援方法について今後検討されていくと良いでしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録閲覧と入室の同意書はユニット1、2各々1名の同意を頂いたので入室はその方々2名だけとしたが、個人ファイルは同意書提出頂いていない人の物もあり、個人情報は徹底していただきたい。	○	訪問中に利用者のいる前で他の利用者のことをお話しされていた場面が見受けられた。プライバシー保護の確保、徹底する事が必要と思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット毎で多少異なるが、口腔ケアや服薬支援、入浴時間などに職員のペースでの支援がみられた。洗面所が一人ずつしか使用できず、順番待ちができていた。	○	限りある時間ではあるが、利用者のペースに沿えるよう職員のアイデアと工夫が望まれる。歯磨きについては、どうしても食堂のそばの洗面所でもなくとも良いのではないだろうか。柔軟な支援を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が上がったということもあり、買物・調理・食事作りを行うことが難しいが、簡単な下ごしらえ、食器ふきなど利用者に手伝ってもらっている。食事時、介助が必要な利用者に対しては、隣席してサポートされていた。スペースが狭いということで職員は同席せず、やや離れて見守りをしている。	○	お話ししながら和やかに食べるという場面は見られなかった。テレビの音をもう少し小さくして、同じ食卓を囲んで楽しむということを引き続き検討されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には毎日入浴支援が行われている。温泉浴、ユニットバスと希望および状況に応じて行われている。デイ・サービスが休みの日曜日は朝から入浴ができ、ゆっくりと入浴を楽しむ支援がされている。		平日は午後1時30分から3時までという入浴時間に対して改善の工夫が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	風船バレー、体操、洗濯物たたみ、もやしの根切り、モップがけ、新聞折など、楽しみごとや役割を作り出す支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には買物、散歩付き添いなどの支援が行われている。普段は主に受診のために使用される車で日曜日にはドライブを楽しんでいる。		グループホームの入所者がせめて10名程度乗れる専用車が1台確保できれば、日常的に外出が可能になるのではないのでしょうか。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアについて職員間で周知されている。時間、状況に応じて戸締りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	重要事項説明書に年2回夜間及び昼間を想定した避難訓練を入所者も参加して実施と記載あるが、平成18年3月の防火訓練以降、訓練の実施は行われていない。この時も職員のみ訓練であった。	○	入所者の参加、夜間の災害時を想定した対応など、避難誘導策の取組みも希望します。また近隣の協力要請及び、水、食料品、生活用品の備蓄等についても検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い手作りの食事が提供され、食事量の記録もあった。透析を受けている利用者を除き、水分摂取量の記録は無かったが、1日1,500ccは取るよう水分補給を心掛けた支援行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光、匂いは感じられなかった。利用者の塗り絵や手作りの作品が共有空間に飾られてあった。ユニットにより、気温に合わせた室温調節ができない、トイレ、洗面所が少ないなどのハード面の不自由さがある。	○	エアコンの台数が少なく、特にユニットIの食堂が暑い。調理場のエアコンを扇風機で食堂に送っておられた。もう少し配慮していただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室は、本人の使い慣れた家具などが持ち込まれるなどして、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		